



# 私の願いを叶えて… ～お家に帰ろう!～



サークル名 **お助けマン**

ご利用者・ご家族・職員満足を目指して

発表者 介護福祉士 **山崎亮汰**  
 パソコン操作者 介護福祉士 **多田留美子**

## 社会福祉法人祐正福祉会

介護老人保健施設ヌーベルさんがわ

入所：定員80名（ショート含む） 通所：定員40名

### 《施設紹介》

香川県さぬき市寒川町に平成12年1月10日に開所  
 訪問看護ステーション、居宅介護支援センターを併設しており、  
 家庭的な環境のもと安全・安心・快適な生活が送れるよう支援に努め  
 地域との幅広い交流の中で様々な活動を行っています

### ■サークル紹介

- ・ 構成人数：15名
- ・ 施設の「福祉」QC活動年数：13年
- ・ 現メンバーでの活動歴：1年
- ・ 平均年齢：32歳
- ・ 活動期間：H29年8月～H30年7月
- ・ 会合回数：22回
- ・ 会合時間：平均60分（業務内外）
- ・ 平均参加率94%
- ・ 構成メンバー職種

作業療法士 看護師 介護士 事務員  
 介護支援専門員 支援相談員 調理師  
 管理栄養士



うどん県



## ■ 今回の活動に関する施設長のコメント

ヌーベルさんがわは平成17年度から業務改善の一環として「福祉QC活動」を導入している。多職種協働で取り組んでいるので、職員同士の人間関係も良く、毎日の業務にも反映できていると確信している。職員も三大介護だけではなく、職員自ら目標や課題設定して取り組む中でチームケアの向上、仕事のやりがい、達成感に繋がっている。ひいては定着率がアップするという好循環となっているように思う。また、ケアの資質向上、人材育成に役立っており、当施設としては「福祉QC」の力量は多大である。

今回の活動は介護老人保健施設の役割である「在宅復帰」をキーワードとし、その第一歩としての在宅への一時帰宅をテーマに掲げ活動を行った。ヌーベルさんがわの特色である多職種協働でのチーム編成に加え他部署や他サークルからの協力を得て専門性を生かした様々な対策を打ち出すことができ、施設全体で取り組んだ活動であった。また、ご家族を巻き込んだ活動ができ、ご利用者のみならずご家族の思いにも触れることができ、信頼関係を深めることができた。

テーマ  
の選定

ご利用者の本当の想いを  
引き出せていないのではないか

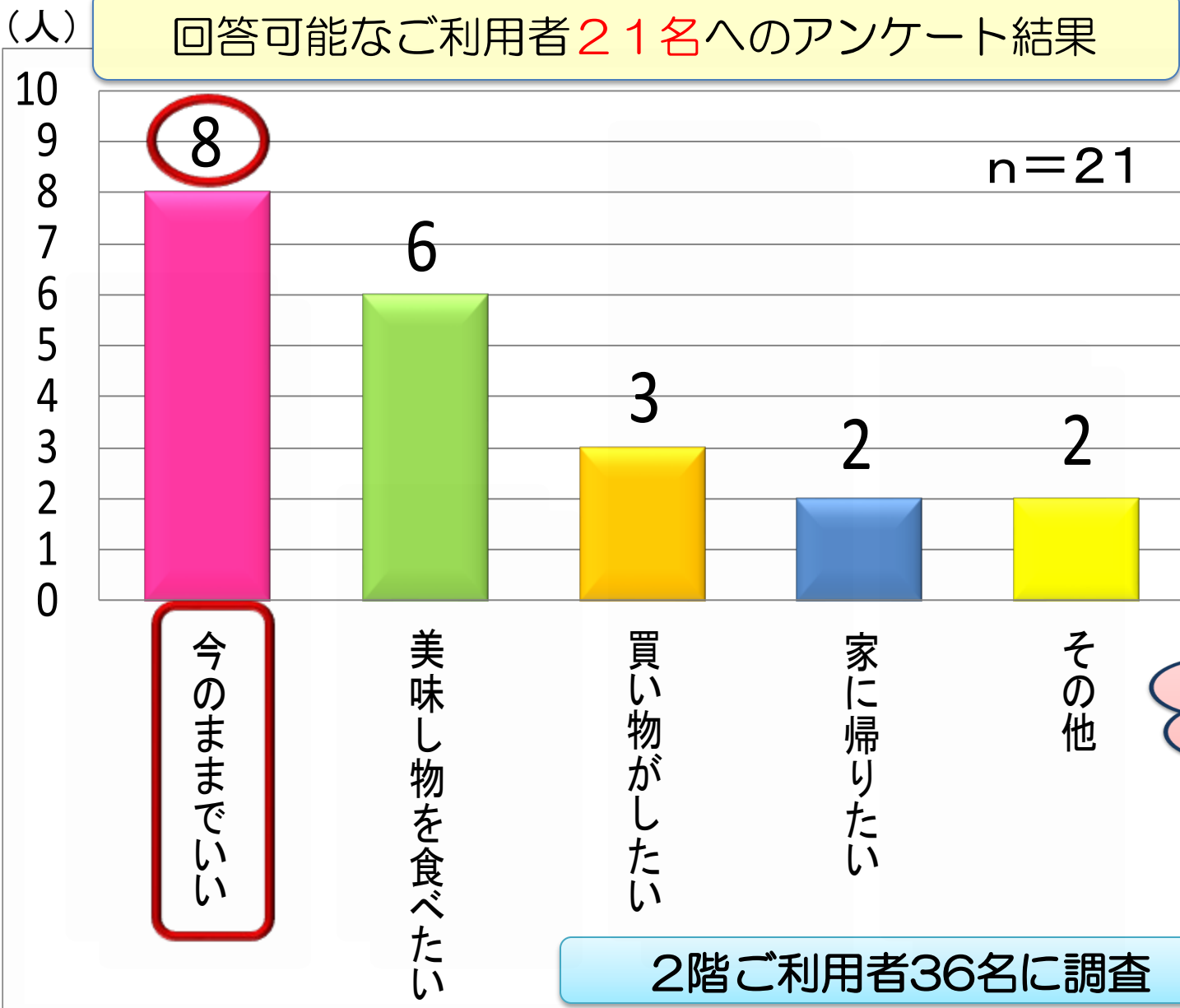
	利用者の満足	施設の期待度	活動の難易度	経済的な効果	課題の魅力性	相乗積	選定順位
①ご利用者の本当の想いを引き出せていないのではないか	4	4	5	5	3	1200	1
②レク内容の充実を図る。	3	5	2	4	2	240	3
③介助量が増えてきているので、食事が食べにくいと感じるご利用者を何とかしたい。	5	3	4	3	5	900	2
④車椅子の転倒を防ぐ。	2	2	1	2	4	32	4
⑤元の生活リズムを作る。	1	1	3	1	1	3	5

活動計画

		【計画 ..... 実施 .....】											
活動計画	担当	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
サークル命名旗作り	多田	.....	.....										
問題集め	吉田		.....	.....									
テーマ選定	大谷			.....	.....								
現状把握	馬場			.....	.....	.....	.....						
目標値設定	前田						.....	.....					
要因解析	滝川							.....	.....				
対策立案実施	多田								.....	.....	.....		
効果の把握	宮西												.....
歯止め	下津												.....
反省、まとめ	藤井												.....
発表会準備	川淵											.....	.....

# 今一番叶えたい夢はなんですか？

回答可能なご利用者21名へのアンケート結果



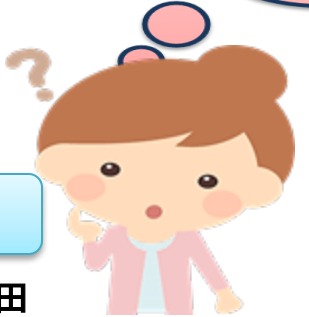
2階ご利用者36名に調査

もう一度ご利用者と  
真剣に向き合って  
ご利用者の**本当の願い**  
が知りたい

夜間帯に個別にゆっくりと  
話す機会を作り、本心を  
聴き出していきました

今、ご利用者の  
本当の願いは  
これなの？

調査方法に問題が  
あったのでは？



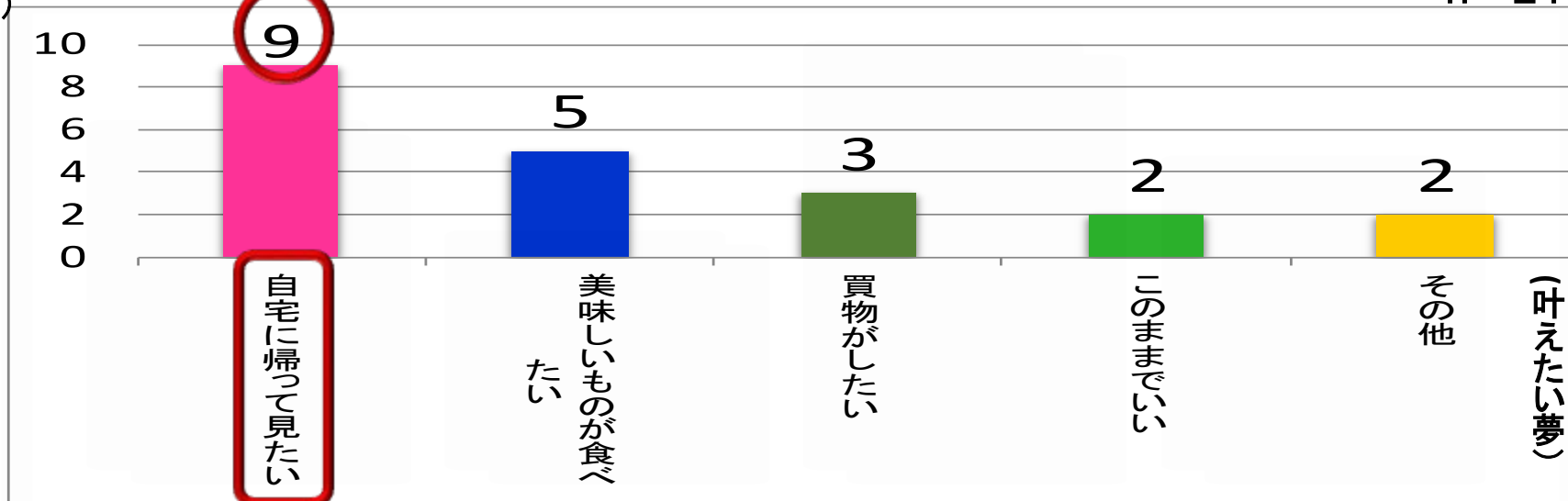
私の夢

今一番叶えたい夢はなんですか？

n=21

回答可能なご利用者  
21名への  
アンケート結果

(人数)



調査期間 H29、10、22~H29、10、30 作成日 H29、10、31 作成者 大谷、吉田

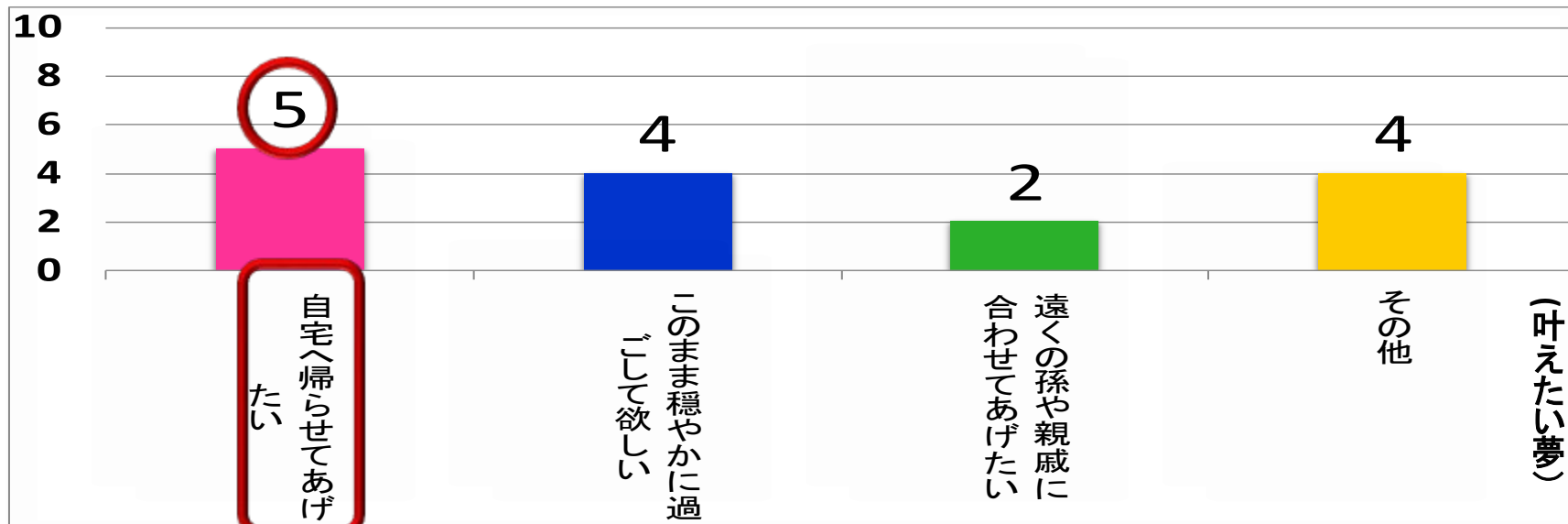
私の夢

今何をしてあげたいですか？

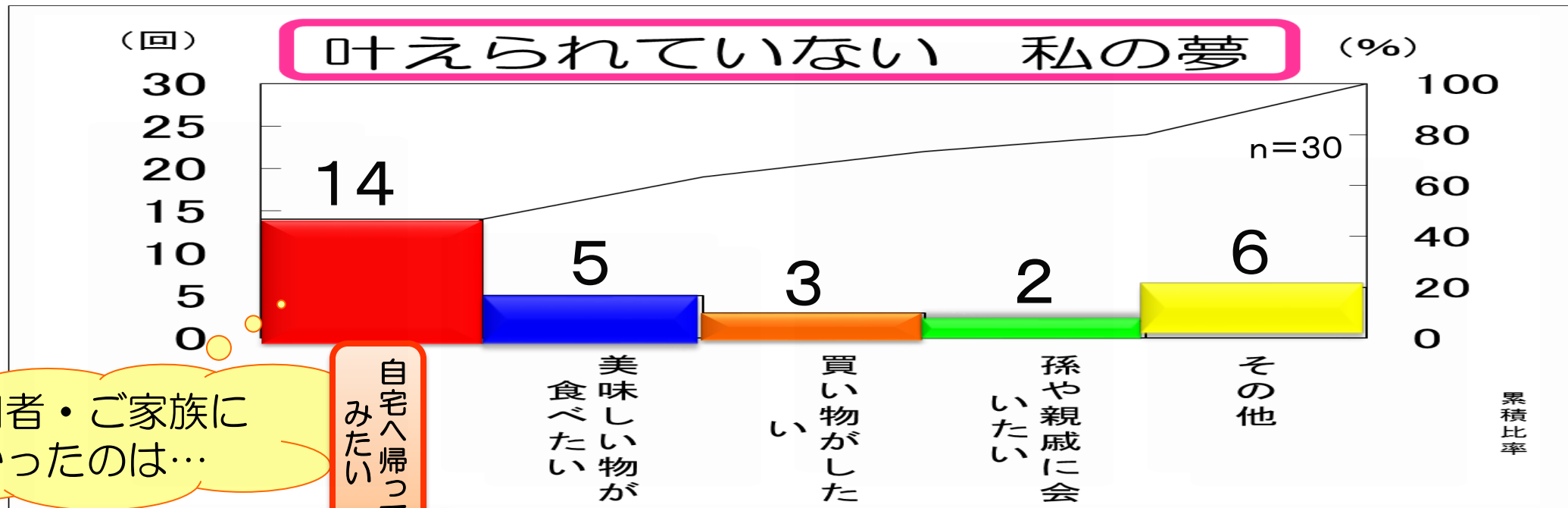
n=15

意思疎通できない  
ご利用者15名は  
ご家族より意見を  
もらいました

(人数)



調査期間 H29、10、23~H29、11、5 作成日 H29、11、6 作成者 吉田、多田



「そのままがいい」と回答した方は除く

ご利用者・ご家族に多かったのは…

自宅へ帰ってみたい

作成日 H29、11、10 作成者 池野、川西

在宅復帰は…  
ご利用者・ご家族にとっても  
ハードルが高い

叶えたい夢を実現させることで  
ご利用者満足に繋げたい

テーマ

**決定!**

私の願いを叶えて!!  
お家に帰ろう!!



在宅復帰への小さな第一歩  
自宅への一時帰宅





14名を対象者

**決定!**

## テーマの選定理由

- ①ご利用者の本当の想いを知り、その想いに寄り添うことで今を楽しく生き生きと生活してもらいたい
- ②ご利用者の笑顔がたくさん見たい、声が聴きたい
- ③在宅復帰の足掛かりとしたい

## 現状把握④

自宅に帰って何をしたい？何をさせてあげたいですか？

### ご利用者へのアンケート結果

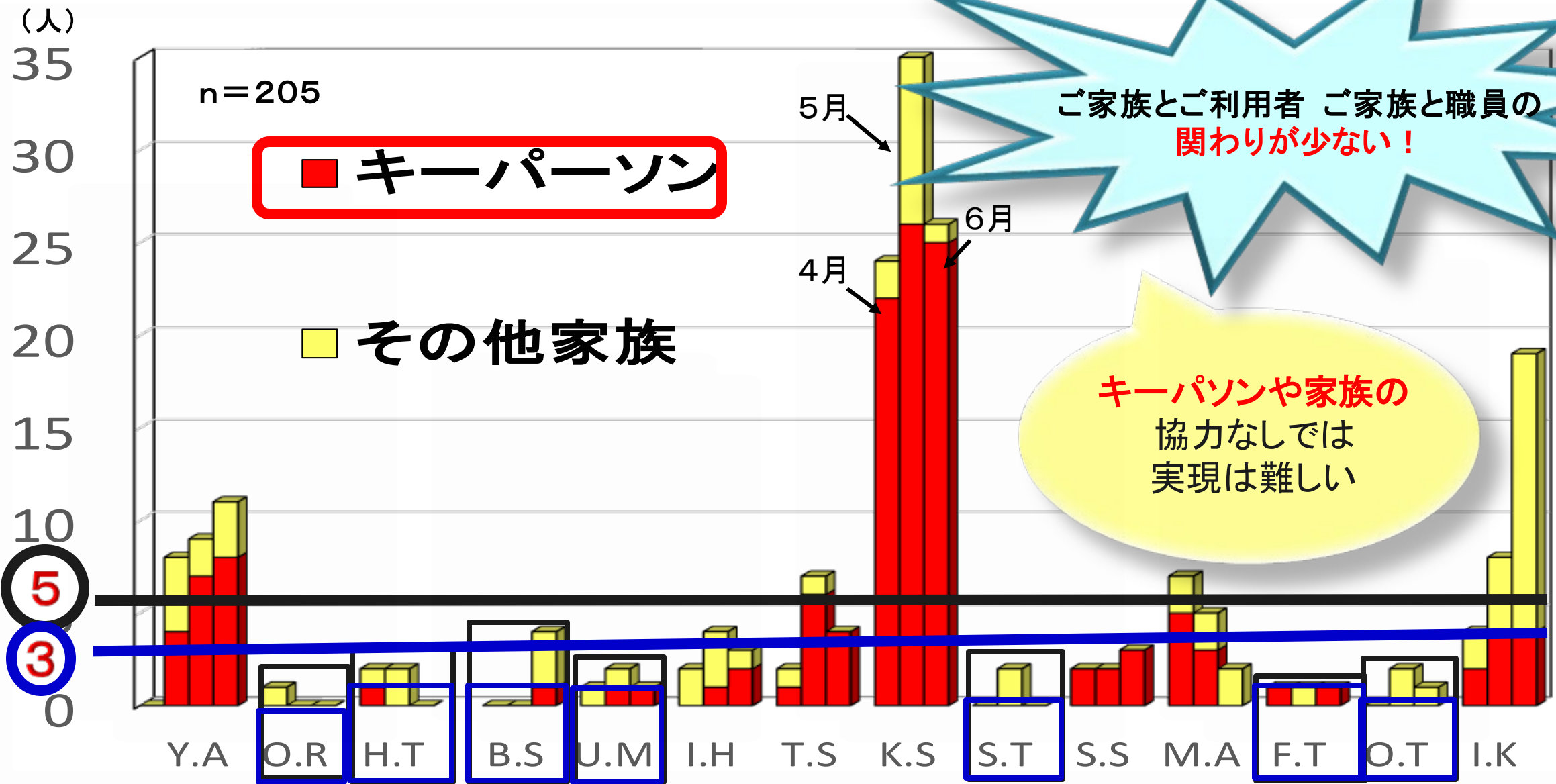
1. 仏さん参りがしたい
2. 孫やひ孫に会いたい  
(孫に小遣いがやりたい)
3. 家で好きなもん食べたい
4. 自分の布団で寝たい
5. 家の中の片付けしたい

### ご家族へのアンケート結果

1. 仏さん、お墓参りがさせたい
2. 遠くの娘、息子、孫、ひ孫に会わせたい
3. 家で好きなもん食べさせたい
4. とにかく元気な内に家に連れて帰りたい
5. 田んぼや畑を見せてあげたい
6. 一緒にお酒が飲みたい

複数回答可

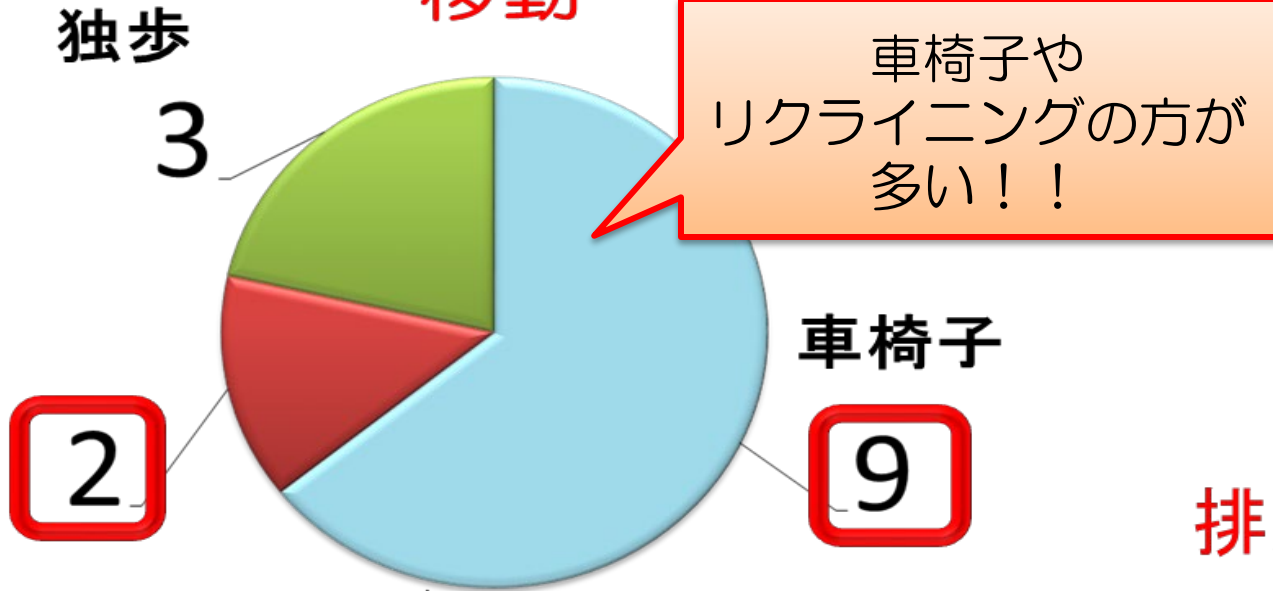
# 3ヶ月のご家族の面会回数



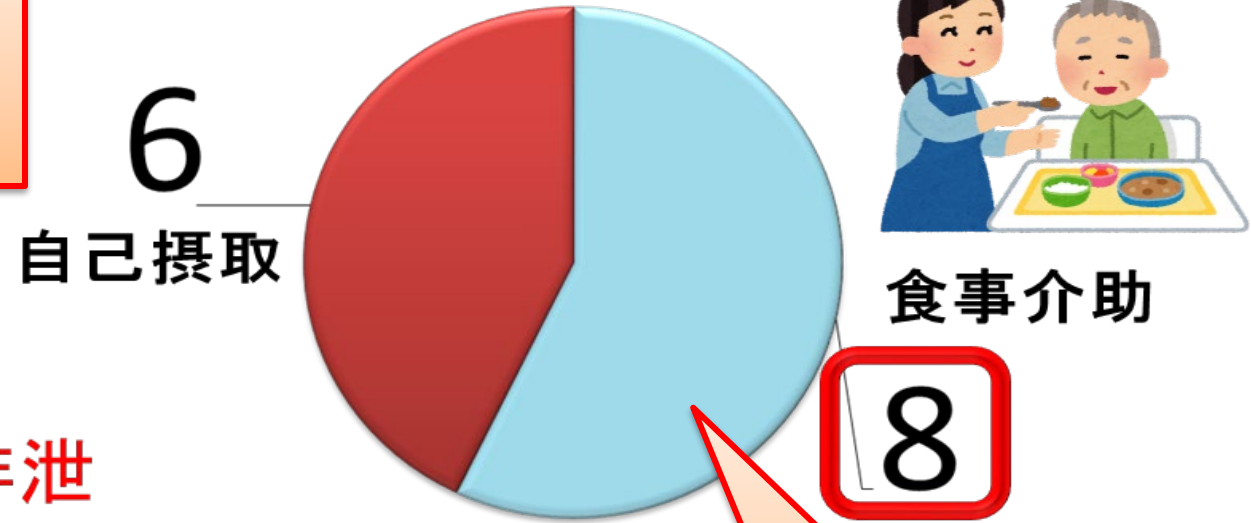


# ご利用者の日常生活動作状況

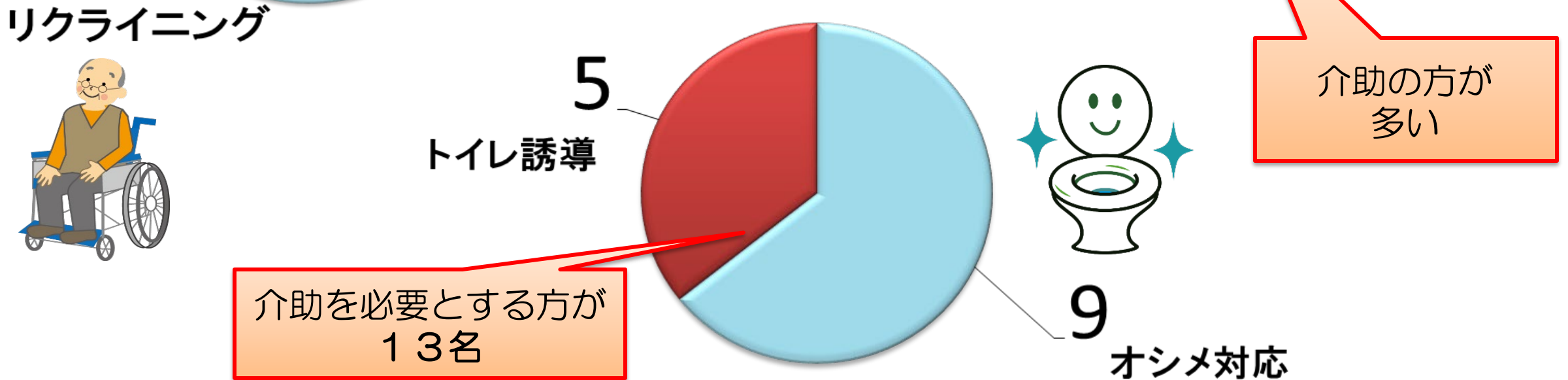
## 移動



## 食事



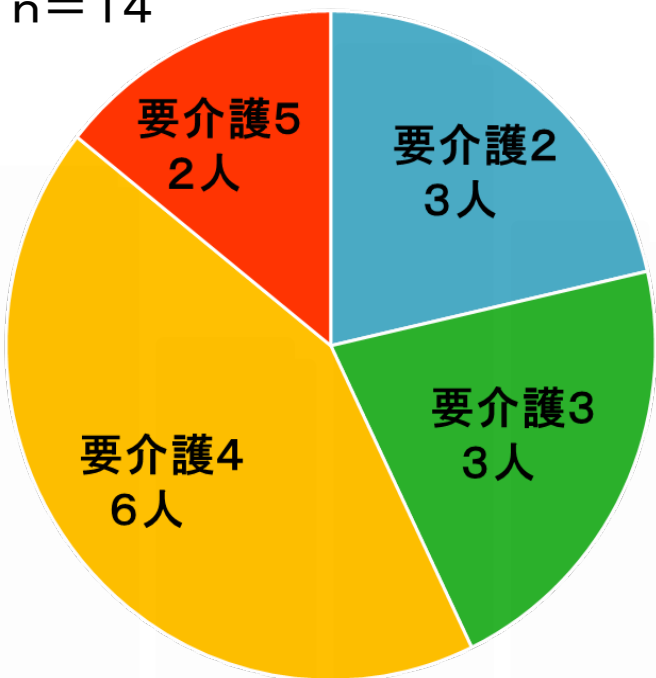
## 排泄



# 現状把握⑦

## \* 介護度

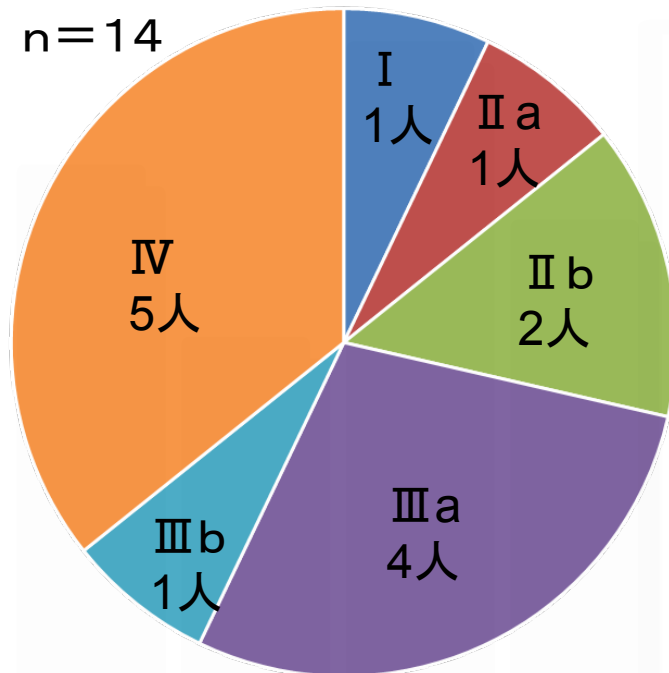
n=14



■要介護2 ■要介護3 ■要介護4 ■要介護5

## \* 認知症高齢者の日常生活自立度

n=14



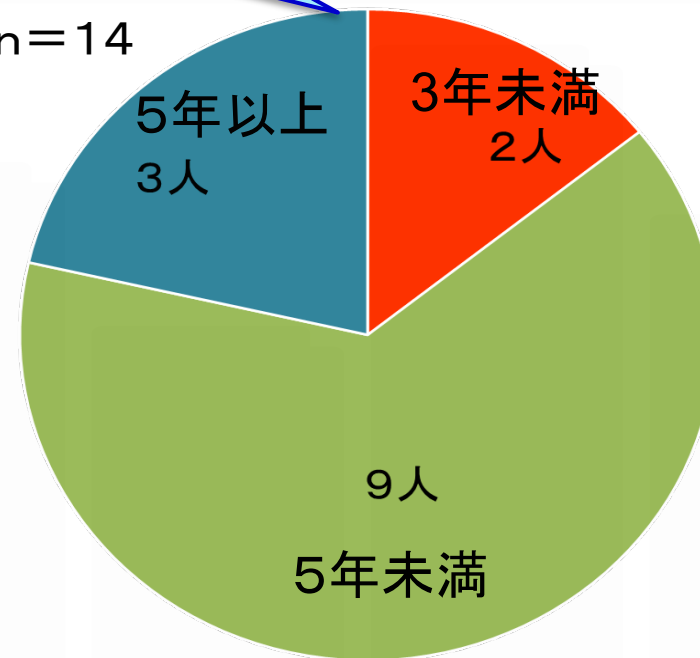
■ I ■ IIa ■ IIb ■ IIIa ■ IIIb ■ IV

# 現状把握④

## ご利用者の入所年数

1年未満の人は  
いません。

n=14



■ 1年未満 ■ 3年未満 ■ 5年未満 ■ 5年以上

軽度の方から重度の方までバラバラ

入所年数が長くなれば  
自宅に帰りずらくなっている。



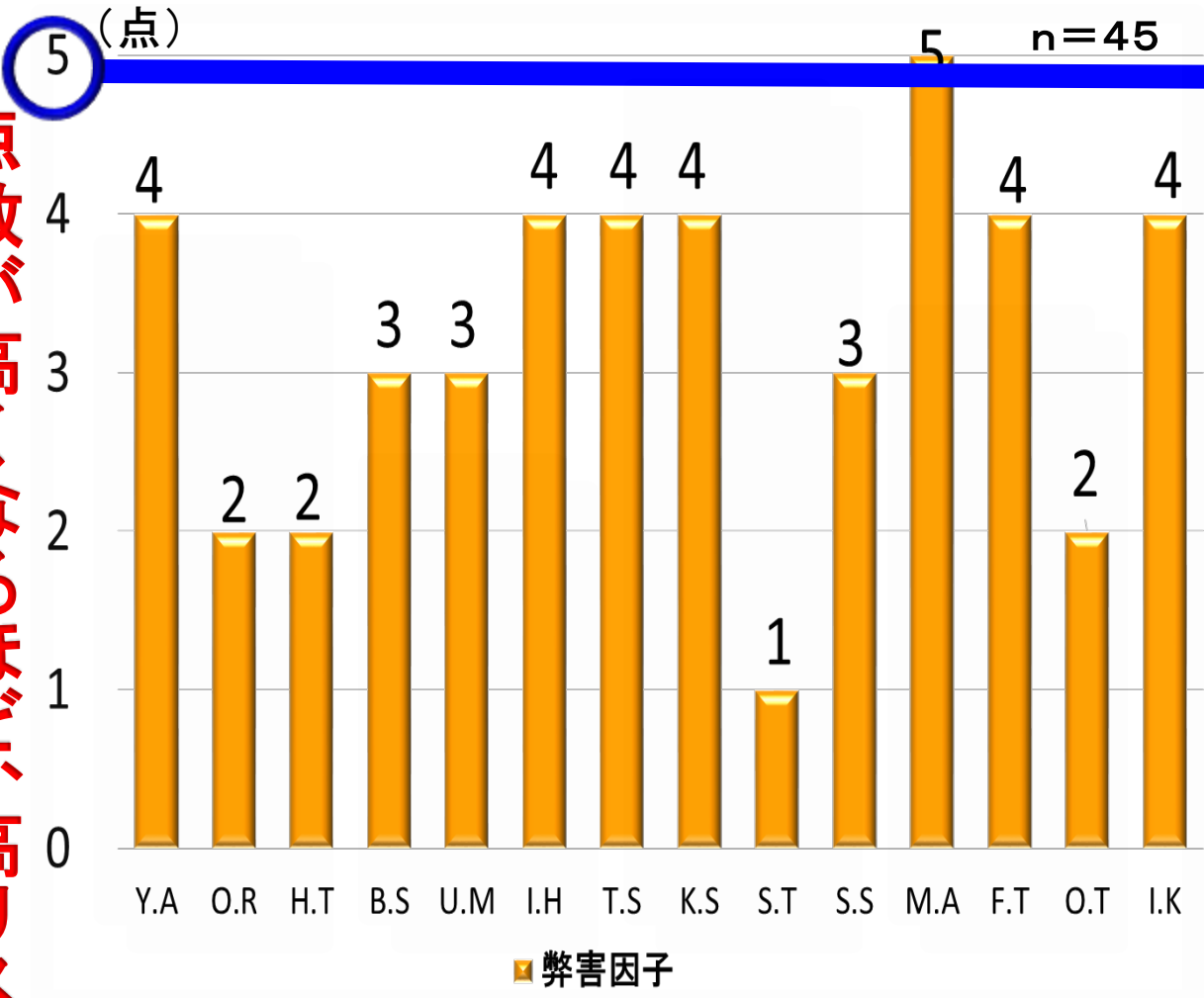
	食事	排泄	移動	認知症高齢者の 日常生活自立度	介護度
Y.A	きざみ・介助	オシメ・介助	車椅子・介助	I	要介護 4
O.R	普通・自己	トイレ・自力	独歩	II a	要介護 2
H.T	きざみ・自己	トイレ・介助	車椅子・自力	II b	要介護 3
B.S	きざみ・自己	トイレ・介助	車椅子・自力	II b	要介護 3
U.M	きざみ・自己	オシメ・介助	車椅子・自力	III a	要介護 4
I.H	きざみ・介助	トイレ・介助	車椅子・介助	III a	要介護 3
T.S	きざみ・介助	トイレ・介助	車椅子・介助	III a	要介護 4
K.S	ペースト・介助	トイレ・介助	車椅子・介助	III a	要介護 4
S.T	普通・自己	トイレ・介助	独歩	III b	要介護 2
S.S	ペースト・介助	トイレ・介助	車椅子・介助	IV	要介護 4
M.A	ペースト・介助	オシメ・介助	リクライニング・介助	IV	要介護 5
F.T	ペースト・介助	オシメ・介助	車椅子・介助	IV	要介護 5
O.T	普通・自己	トイレ・介助	独歩	IV	要介護 2
I.K	きざみ・介助	トイレ・介助	リクライニング・介助	IV	要介護 4

精神的に不安定になること

一時帰宅に対する弊害因子（介助量）を点数化

氏名	移動	食事	排泄	易怒性	吸引	計
Y. A	1	1	1	1	0	4
O. R	0	1	0	1	0	2
H. T	0	1	1	0	0	2
B. S	0	1	1	1	0	3
U. M	0	1	1	1	0	3
I. H	1	1	1	1	0	4
T. S	1	1	1	1	0	4
K. S	1	1	1	1	0	2
S. T	0	0	1	0	0	1
S. S	1	1	1	0	0	3
M. A	1	1	1	1	1	5
F. T	1	1	1	1	0	4
O. T	0	1	0	1	0	2
I. K	1	1	1	1	0	4

点数が高くなるほど、高リスク！



帰宅へのハードルが高くなる

なぜご利用者は自宅へ帰宅できていないと思いますか？

- 1、車椅子やリクライニングで自宅への帰宅は難しいと思う
- 2、ご家族が帰宅した際の介護に不安を感じていると思う
- 3、帰宅した時のご利用者の体調面に不安があるから
- 4、排泄面に不安があるから
- 5、その他

複数回答可

調査期間 H30、1、24～H30、1、30 作成日 H30、1、30 作成者 前田、



ご利用者が一時帰宅した際、ご家族が困ることはありますか？

- 1、車椅子や寝たきりやから、家の中に入れてあげるのは難しい
- 2、介護するのは家族ではできない（車椅子から降ろしたり等）
- 3、施設に帰りたくないと言われたら困る
- 4、トイレに連れていったり、オシメをかえるのが困る
- 5、帰宅した時、体調がわるくなったら困る
- 6、精神的に不安定になったら対応できない
- 7、その他

複数回答可

調査期間 H29、12、15～H30、1、15 作成日 H30、1、23 作成者 藤井、滝川

## 現状把握から分かったことまとめ

- 1、対象ご利用者の方のキーパーソンの面会回数は14名中7名の方が特に少ない
- 2、移動手段が車椅子・リクライニングの方が多い
- 3、食事・排泄においては半数以上の方が介助を要する
- 4、介護度・認知症高齢者の日常生活自立度は軽度～重度までバラつきがあった
- 5、対象ご利用者は3年～5年の比較的に入所年数が長い方が多い
- 6、生活時の動作が自立していても認知症状が重く帰宅できていない
- 7、認知症状が軽い方でも介助量が多い方は帰宅できていない
- 8、弊害因子（介助量）は、1点～5点であった
- 9、ご家族、職員ともに帰宅した時のご家族の介護負担が大きいと感じている
- 10、車椅子やリクライニングの方が多く、ご家族、職員ともに自宅への帰宅は難しいと思っている
- 11、ご家族、職員ともに長く家で過ごすことは体調面で難しいと思っている
- 12、職員は自宅へ帰れない理由として身体的理由を挙げている
- 13、ご家族は自宅へ帰れない理由として身体的理由以外にも、認知症状に対する不安の声も多く挙げられている

## 目標値の設定

家に帰ってみたいと思っているご利用者 **14名全員**が帰宅する

**14名全員の夢を叶えたい！**



# 要因解析

## 利用者

## 職員

③多職種職員が自宅への帰宅においてリスク解決に向け積極的に関わっていない

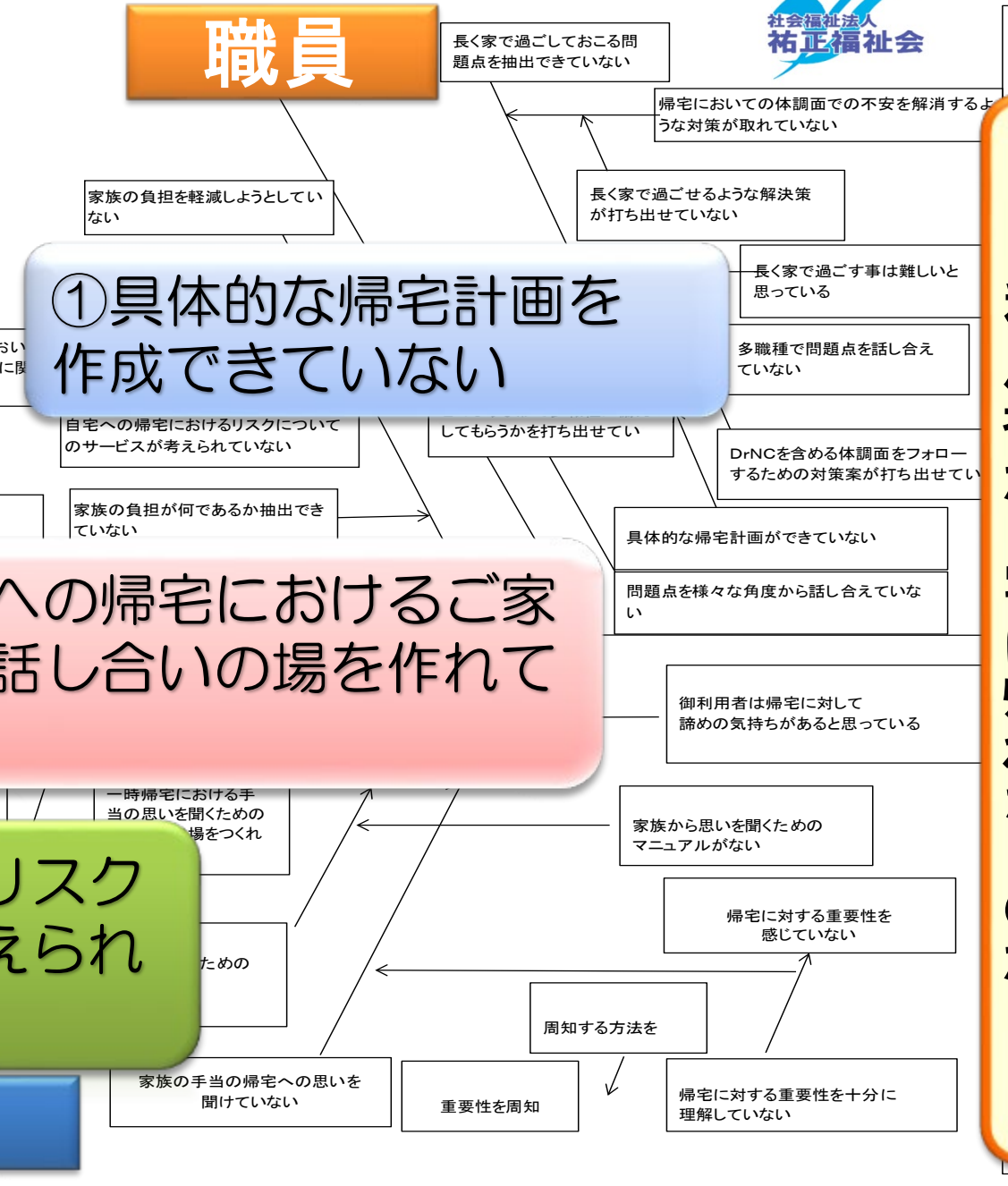
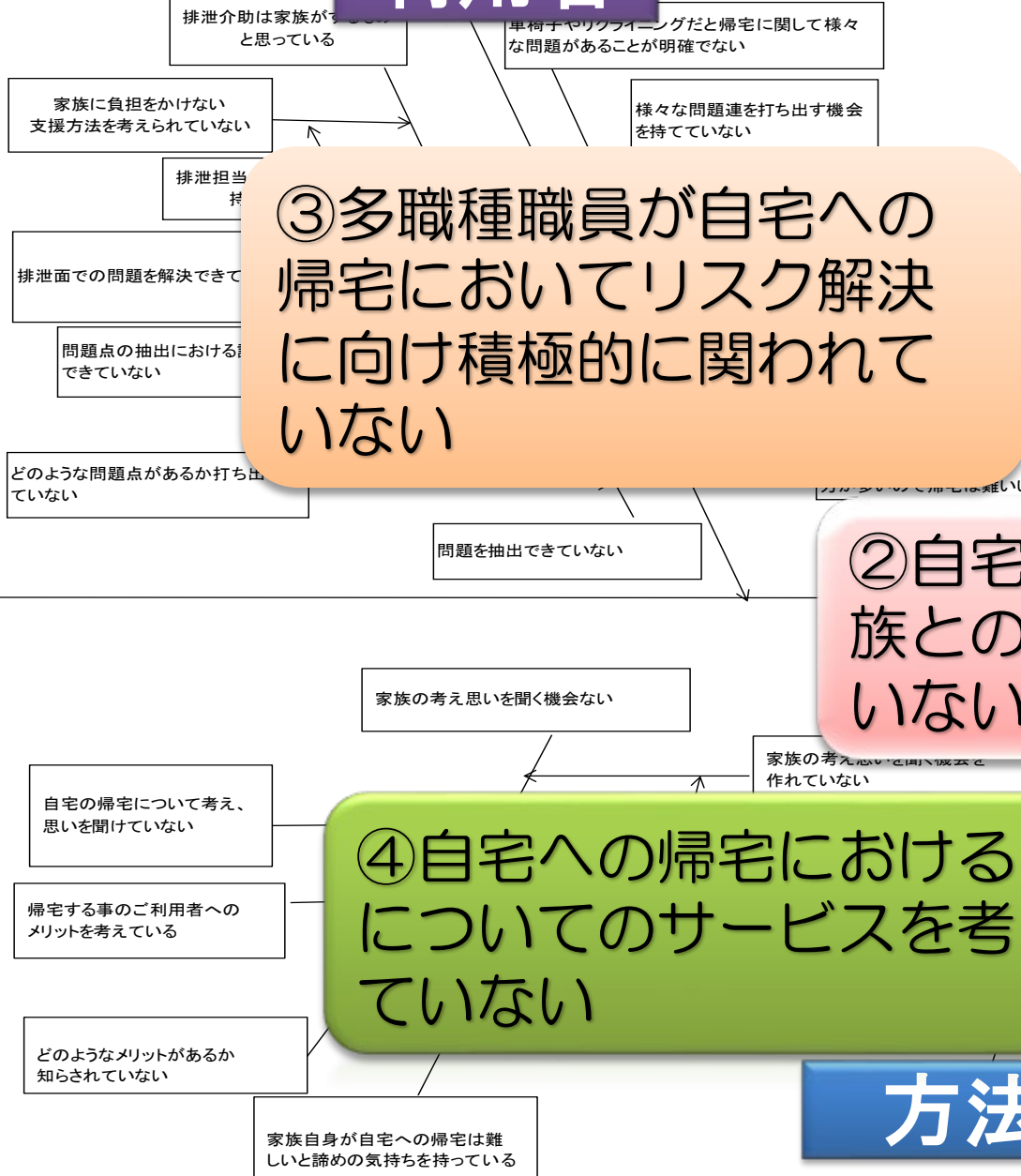
①具体的な帰宅計画を作成できていない

②自宅への帰宅におけるご家族との話し合いの場を作れていない

④自宅への帰宅におけるリスクについてのサービスを考えられていない

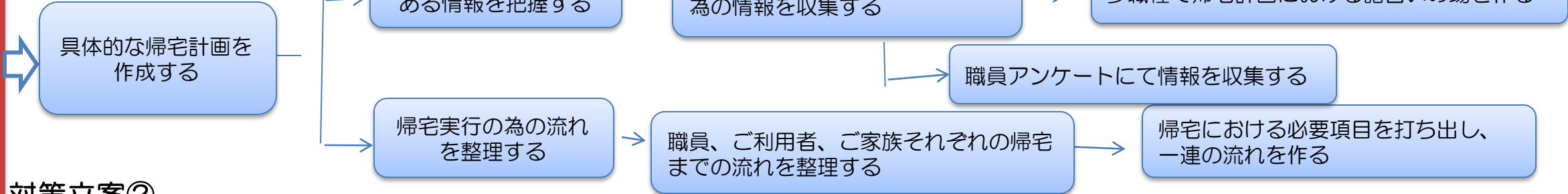
## 方法

なぜ自宅に帰ってみたいと思っ  
ていないのか？

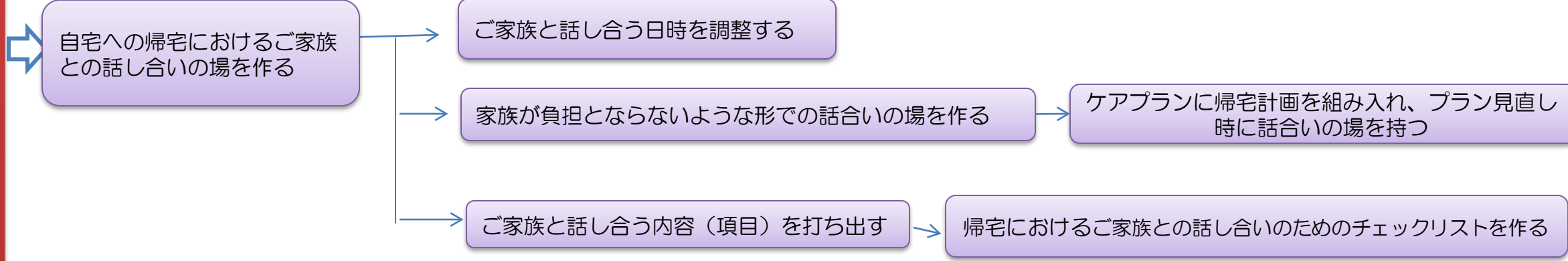


自宅に帰ってみたいけど帰れない利用者  
が自宅に一時帰宅のね

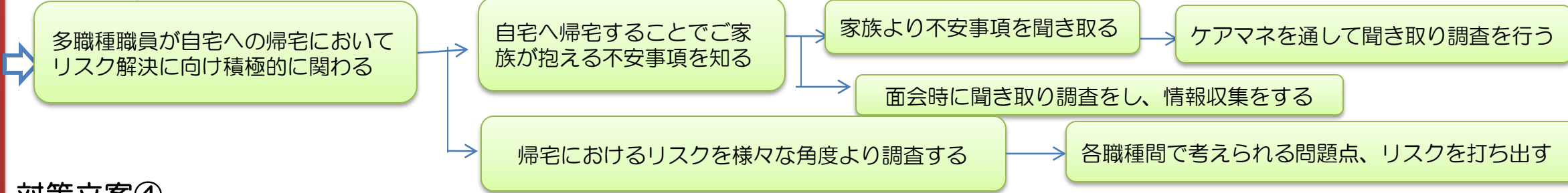
### 対策立案①



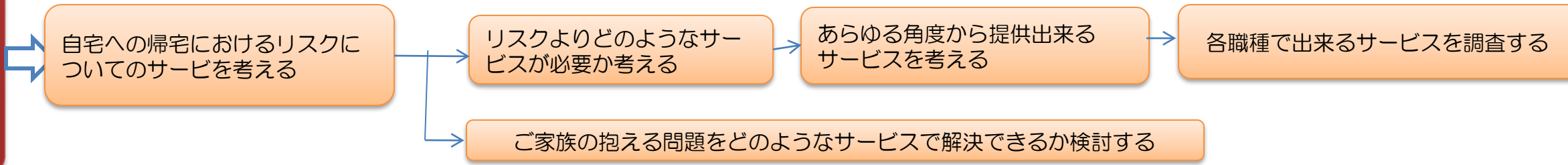
### 対策立案②



### 対策立案③



### 対策立案④





対策立案①

具体的な帰宅計画を作成する

- 1 多職種で帰宅計画における話合いの場を作る
- 2 職員アンケートにて情報を収集する
- 3 帰宅における必要項目を打ち出し、一連の流れを作る

- 帰宅マニュアル (一時帰宅編)
- 【家族】
- ① 外出 (一時帰宅) の有無の調査・聞き取り調査
  - ↓
  - 【家族・利用者】
  - ② 帰宅時の要望・希望についての調査 (聞き取り・アンケートにて)
  - ↓
  - 【家族】
  - ③ 利用者の思いを家族に伝え、思いが叶えられるような取り組みの提案・理解を得る
  - ↓
  - ④ 利用者の思いを実現するために、帰宅時における家族が抱える不安・問題点・疑問点 (不安・問題点・疑問点) ※家族の協力はどこまで得られるか調査 (聞き取り)
  - ↓
  - ⑤ 家族調査から出た問題点・不安・疑問点について多職種で話し合い
  - ↓
  - ⑥ 自宅訪問を行い、リスク (問題点) をさらに調査
  - ↓
  - ⑦ 多職種にて解決策を打ち出す
  - ↓
  - ⑧ 解決策を家族に伝える (話し合い) ※家族の都合等により、面談
  - ↓
  - ⑨ 最終日程調整
    - 1、 家族に都合良い日時を開く
    - 2、 付き添い・運転手等の職員の確保
    - 3、 車の手配 (デイの送迎等)
  - ↓
  - ⑩ 一時帰宅実行
  - ↓
  - ⑪ 実施経過の記録 (記録用紙参照)
    - 1、 実施に至るまでの経過の記録
    - 2、 実施後の反省会実施
    - 3、 実施してみたの反省、留意点、今後の課題、今後のさらなる目標

帰宅マニュアル

一連の流れを整理

聞き取りの順序からリスクの抽出  
車の手配等の手順をマニュアル化し  
スムーズに取り組める  
ようになった！！

対策案の評価			実施計画	
効果	実現性	採・否	だれが	いつまで
×	×	不	馬場	2月下旬
×	○	不	高木	2月下旬
○	○	採	高木	3月初旬

帰宅記録

・利用者( )

・担当職員( )

・決行日 月 日 ( )

・出発時間( : ) 帰園時間( : )

・付き添い職員( ) 車種( )

・実施内容

---

・利用者(反応・笑顔の評価・帰園後の変化等)

---

・家族(反応等)

---

・職員コメント

---

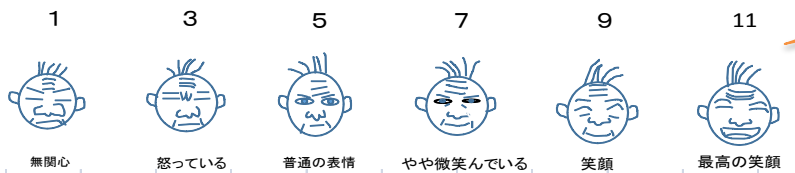
・今後の課題

今回の活動において  
サークル独自の  
帰宅記録を作成

記録に残すことで  
活動の効果を確認して、  
活動の質を上げて  
いきました

新たな課題を発見、  
改善！

笑顔の評価



## 対策立案②

# 自宅への帰宅におけるご家族との話し合いの場を作る

1

ご家族と話し合う日時を調整する

2

ケアプランに帰宅計画を組み入れ、プランを見直し時に話し合いの場をもつ

3

帰宅における、ご家族との話し合いのためのチェックリストを作る

対策案の評価			実施計画	
効果	実現性	採・否	だれが	いつまで
○	○	採	藤井	3月初旬
○	○	採	滝川	3月初旬～4月初旬
○	○	採	多田	4月中旬

自宅への帰宅をケアプランに組み入れる

プラン見直し時など話し合いの機会づくり

帰宅についての聞き取りチェックシート作成

【モニタリング一覧表】

利用者 Y. A様

評価日

評価者

計画作成者

社会福祉法人 祐正福祉会  
介護老人保健施設 又 べルさんがわ

No.	短期目標	リスト内容	担当者	評価期間	確認方法	実施状況	本人・家族の満足度	目標の達成度	今後の方針
5	援助をしてもらい、家に外出できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食卓高、水分量の確認</li> <li>・階層、廊下状態の確認</li> <li>・携行の具やリフトの取付、一部介助者家族の配慮</li> <li>・廊下のゴミをユニバーサルボックスにしっかり取る（掃除機で）</li> <li>・他者との交流できるようにサイン</li> <li>・レクリエーション、行事への参加</li> <li>・散歩の実施</li> <li>・家族に面会や自宅への外出の協力を依頼する</li> <li>・音楽療法の実施</li> </ul>	介護員、看護師	H28.05.01～07.31					
			介護員、看護師	H28.05.01～07.31					
			介護員、看護師	H28.05.01～07.31					

サークルメンバー以外の職員にも活動を理解してもらった  
様々な視点からアイデアをもらいました！

帰宅についてのご家族様への聞き取りチェックシート

- ご家族に連絡を取る  
自宅への帰宅はどうですか？
- ご家族の帰宅に対しての不安になる事を聞き取る。  
(ア) 自宅の構造 玄関の広さ・上がりかまちの高さ等  
(イ) 送迎の手段  
・施設 ・ご家族  
(ウ) ご利用者の体調  
(エ) 介助の面
- 自宅に帰った時、何をしたい・してあげたいか

ご家族から必要な情報収集！

### 対策立案③

多職種職員が自宅への帰宅において  
リスク解決に向け積極的に関わる

1

各職種間で考えられる  
問題点、リスクを打ち出す

2

ケアマネを通して  
聞き取り調査を行う

3

面会時に聞き取り調査をし、  
情報収集をする

### 対策立案④

自宅への帰宅におけるリスクに  
ついてのサービスを考える

1

各職種で出来る  
サービスを調査する

2

ご家族の抱える問題をどのような  
サービスで解決できるか検討する

### 対策案の評価

### 実施計画

効果	実現性	採・否	だれが	いつまで
○	○	採	大谷	2月初旬
○	○	採	馬場	2月初春
○	○	採	多田	4月初旬

### 対策案の評価

### 実施計画

効果	実現性	採・否	だれが	いつまで
○	○	採	池野	3月初旬
○	○	採	前田	3月初旬

話し合いをスムーズに行う  
為您ご家族への  
聞き取り  
チェックシート使用

帰宅についてのご家族様への聞き取りチェックシート

1, ご家族に連絡を取る

自宅への帰宅はどうですか？

2, ご家族の帰宅に対しての不安になる事を聞き取る。  
(ア) 自宅の構造 玄関の広さ・上がりかまちの高さ等

(イ) 送迎の手段  
・施設 ・ご家族

(ウ) ご利用者の体調

(エ) 介助の面

3, 自宅に帰った時、何をしたい・してあげたいか

事前に家族より  
不安事項の  
聞き取り調査実施



多職種で話し合い自宅への  
帰宅においてのリスクを打ち出す



帰宅へのリスクと決定事項

? 帰宅の日時(家族の希望)第3希望まで

? 日時決定ヨ

? 送迎の車

? 職員の手配(送迎、自宅での付き添い)

? 家族の不安事項とリスク

? 決定事項

ご家族への不安事項の  
聞き取り調査  
聞き取りチェックシートと  
個々の職種の立場から  
リスクを考え

この情報を元に

提供できるサービスを  
打ち出し  
問題解決

自宅へ帰宅する際考えられるリスク一覧

名前	リスク	解決策
M.A様	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、リクライニングに長時間乗っていることは難しい</li> <li>2、リクライニングでの自宅への乗り入れは難しい</li> <li>3、急な体調の変化が心配</li> <li>4、痰吸引が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、ご家族に依頼し臥床出来る場所を作っていただく</li> <li>2、ご利用者を室内へ上げるためにはご利用者を持ち上げる事が必要となるため男性職員2名付き添いする</li> <li>3、看護師が付き添う(医師が帰宅前に診察細かな対応を指示)</li> <li>4、簡易吸引機を持参する</li> </ul>
T.S様	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、自宅へ上がるには高い段差があり難しい</li> <li>2、車椅子からご自分の部屋のベットに家族では移せない</li> <li>3、家族との食事は誤嚥の心配がある</li> <li>4、きざみ食の準備が家族では分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、施設手作りのスロープを持参する</li> <li>2、職員2名が付き添い介助する</li> <li>3、職員が付き添い、家族と相談し、必要時は介助にあたる(看護師付き添い)</li> <li>3、吸引機持参</li> <li>4、食事を施設側で用意し、持参する</li> </ul>
I.H様	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、段差が高く、また狭いためスロープが使用出来ない</li> <li>2、普段お尻が痛く長時間座ってられないとの訴えあり</li> <li>3、普段自宅への帰宅願望あるため不穏状態になる可能性あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、ご利用者を室内へ上げるためにはご利用者を持ち上げる事が必要となるため男性職員2名付き添いする</li> <li>2、リハスタッフに相談し、座位保持の検討していただく</li> <li>3、事前にご家族と話をし、統一した声かけを行う等様々な状況を想定した対応を家族と話し合っておく</li> </ul>



自宅に下見へ行かせて  
いただき問題点を調査

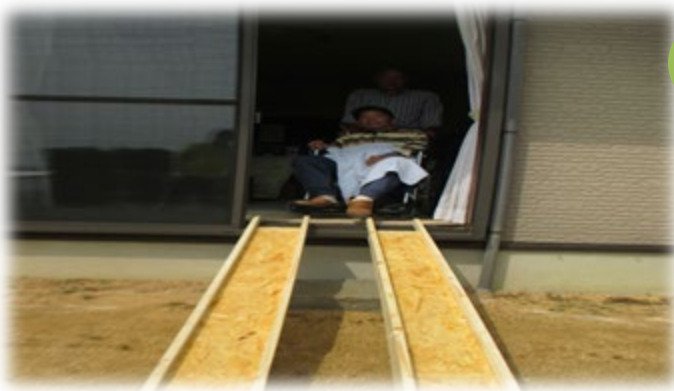
- 家の出入り幅
- 車の乗り降り、場所
- トイレの確認
- 家の間取りなど・・・



対策の一例

職員手作りスロープ

家の幅に合った車椅子



乗り入れが  
楽です

ゆるやかな傾斜を  
作ることが  
出来ました



廊下が狭い等  
自宅の環境に合った  
車椅子等の  
福祉用具を用意

対策立案③と④

介護支援専門員協力

帰宅までの綿密な  
打ち合わせ



支援相談員協力

車  
運転手  
手配



リハビリスタッフ協力

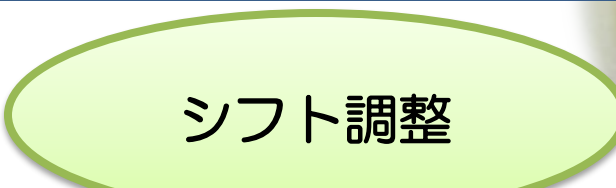
自宅への下見  
リハビリ内容見直し



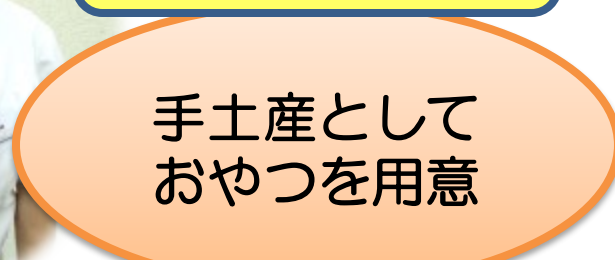
管理栄養士・調  
理師協力

シフト作成者協力

シフト調整



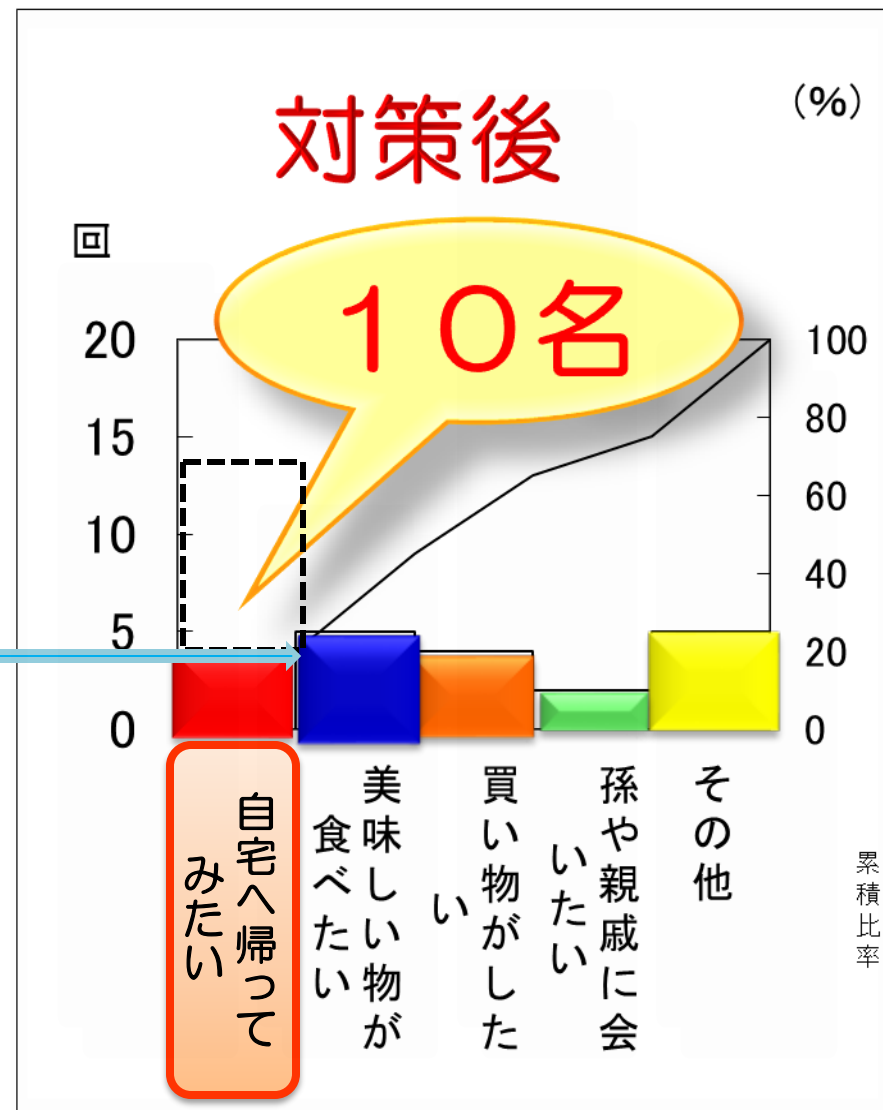
手土産として  
おやつを用意



# 叶えられていない 私の夢

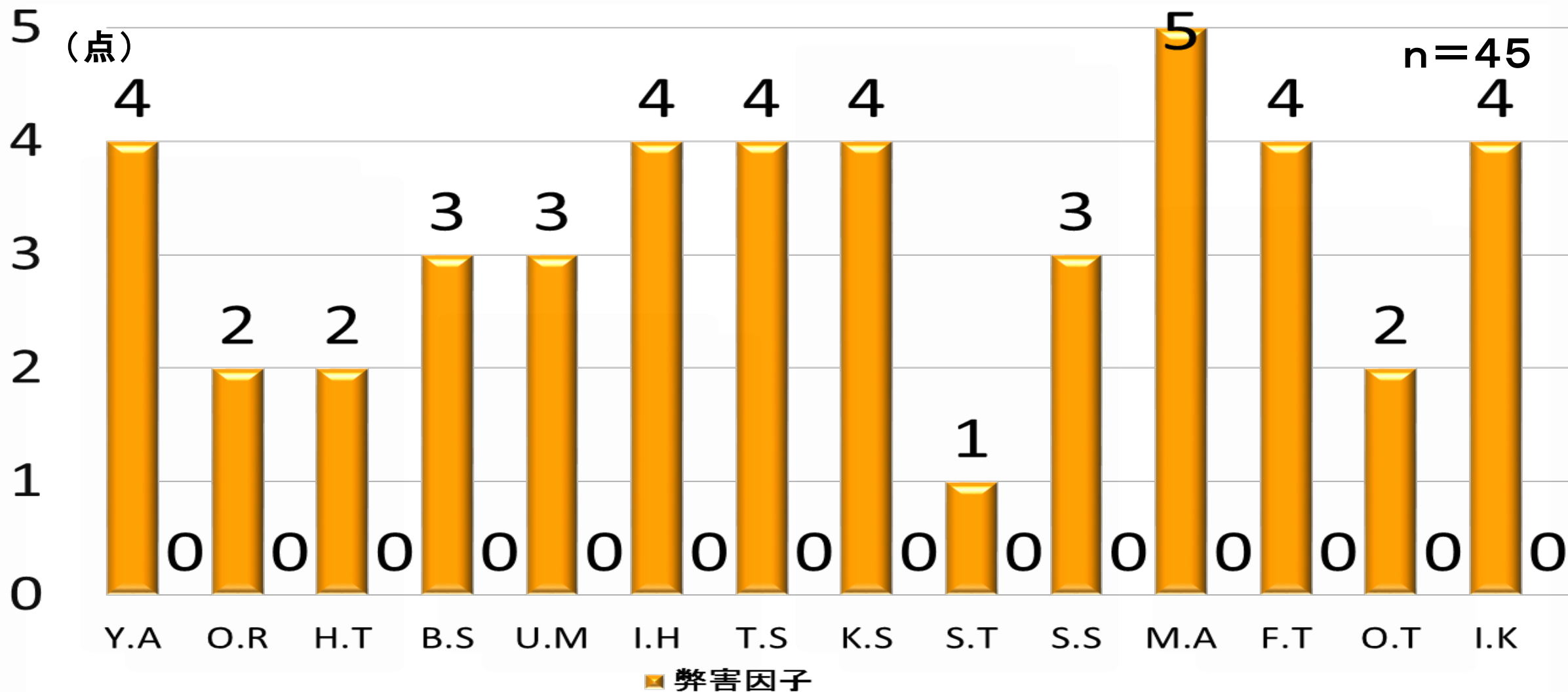


作成日 H29. 11. 10 作成者 池野 川西



作成日 H30. 7. 12 作成者 池野 川西

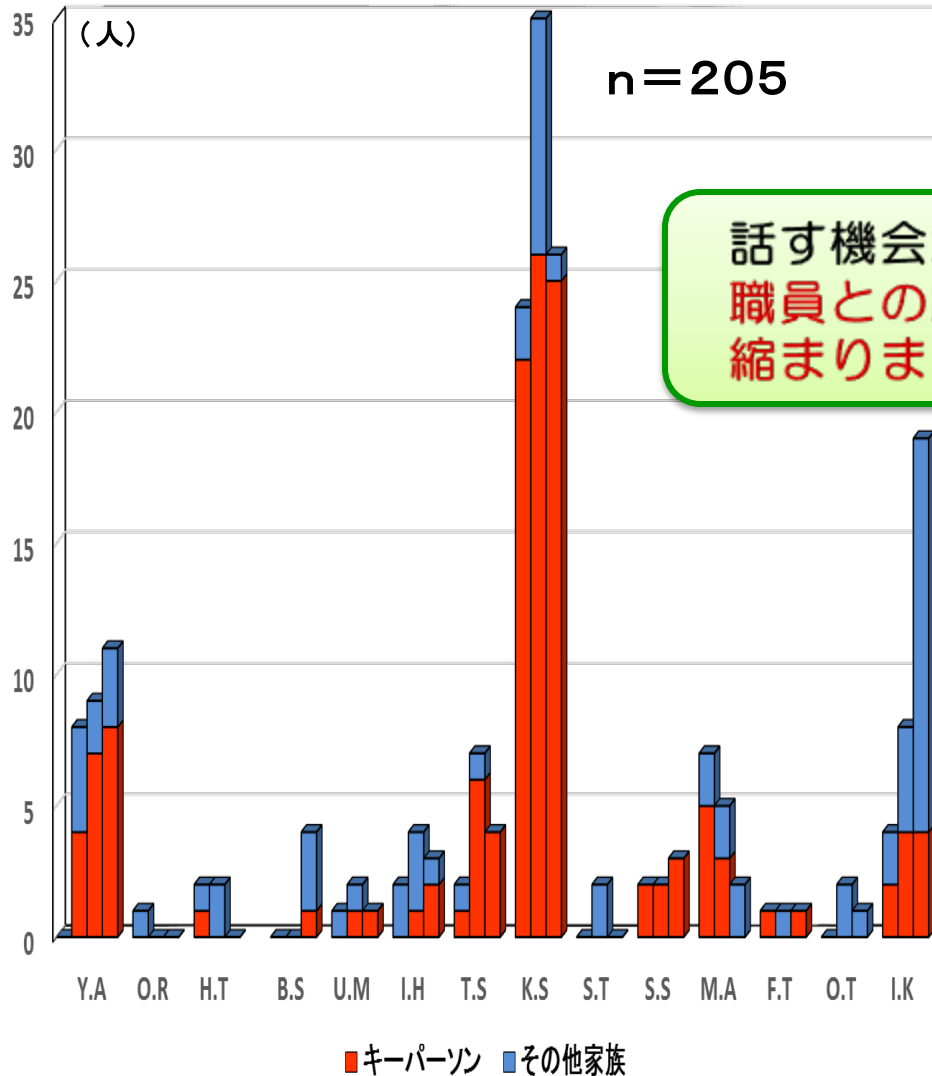




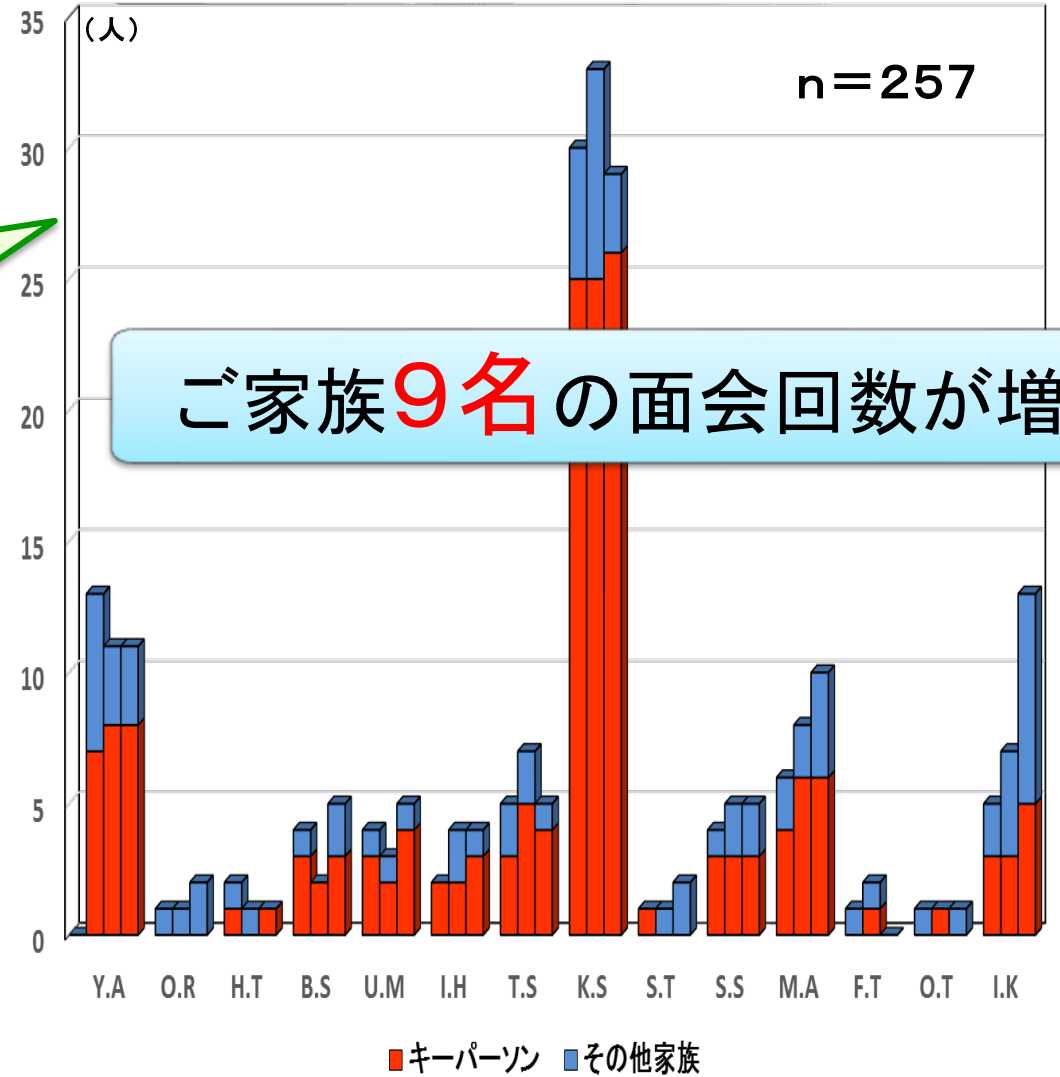
対策前



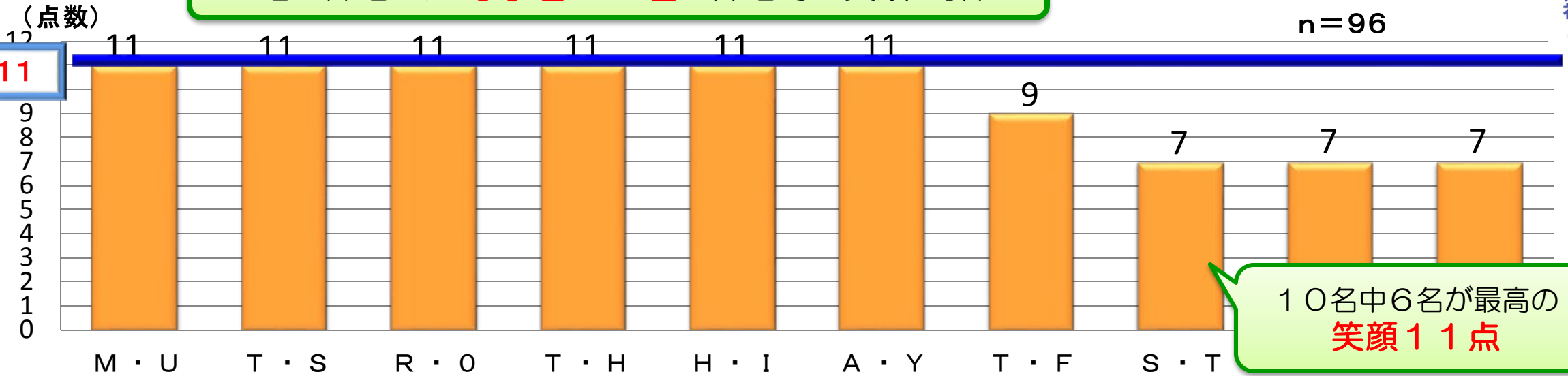
対策後



話す機会が増え  
職員との距離も  
縮まりました！



ご家族9名の面会回数が増加



10名中6名が最高の  
笑顔**11点**

1 無関心      3 怒っている      5 普通の表情      7 やや微笑んでいる      9 笑顔      11 最高の笑顔

実施期間 H30、4、1~H30、6、30 作成日 H30、7、8 作成者 藤井、前田

ご利用者からの声

帰園後、帰宅願望や精神的に不安定になるはいませんでした

楽しかった  
また新しいことに挑戦したい

職員からの声

実際にお宅にお邪魔して、  
こんな生活されていたのだと  
肌で感じられた



家に帰ってきたで  
楽しかったわ！

かあちゃんに会えて  
良かったありがとうで  
長生きせんといかんの



有形効果

目標達成率

71%

現状改善率

171%

無形効果

ご利用者ご家族と会話をする機会が増え、ご利用者、ご家族の本当の想いに触れることができた。

ご利用者・ご家族の笑顔や喜びの声が聴け、職員が達成感・やる気を感じる事が出来た。

この活動を通して多職種との連携も図れチームワークの向上がみられた。



波及効果

何に対しても意欲のあまり見られなかったご利用者に活気が生まれ、リハビリやレクに参加していただけるようになった。

ご利用者の良い変化を見ることによって、住みなれた環境、生活の継続が認知症ケアにとって大切であることを改めて知ることが出来た。

ご利用者、ご家族と、職員がこの活動を通してコミュニケーションの充実を図られたことにより、ご利用者、ご家族との距離が縮まった。

歯止め		分類	何を	どの様に	時期	誰が	管理手法
標準化	帰宅マニュアル見直し・改訂		年度当初に多職種で話し合いを持ち見直しを行う	1年に1回	介護士 多田 看護師 池野	マニュアル	
	帰宅へのリスクシート見直し		帰宅したいご利用者・ご家族がいた際に個々のご利用者にあわせた対応を検討する	3ヶ月毎及び希望時期	フロア一担当者 藤井、滝川	リスクシート	
	ご利用者の一時帰宅を定期的実施		ケアプランに入れ、3ヶ月毎に支援内容の見直し	帰宅希望時	介護支援専門員 馬場	ケアプラン	
教育	介護の仕事に対するやりがい		勉強会、活動参加	新人職員採用時	OJT責任担当者 中井	指導職員への指導	

### 反省とまとめ

CS-QCステップ	良くできたこと	出来なかったこと
(1) テーマの選定	ご利用者に関わりの深いテーマが選定できた	なかなか絞り込めなかった
(2) 現状把握、目標設定	ご利用者・ご家族・職員から情報収集でき、それぞれの想いを引き出せた	データ化することが難しかった
(3) 要因の解析	深く追求することができ、4次要因以上のものを対策要因とした	時間を要した
(4) 対策立案の実施	多職種協働で多面的に対策ができた	時間を要した
(5) 効果の確認	ご利用者、ご家族、職員の満足に繋がった	デジタル化が難しかった
(6) 歯止め	確実に継続できる案が打ち出せた	もっと詳細な歯止めにしたかった
(7) ミーティング	多職種で色々な意見が出しあえ、幅広い視点からの意見が聴かれた	多職種での会合は日時調整が難しかった
(8) 活動計画運営	参加率が良く、協力し合えた	計画通りに進まなかった

★一時帰宅の様子★



Uさんのお嫁さんより

私を作ったお母さん直伝の  
大きな押し寿司を食の細いお母さんが  
「美味しい」と言って一個全部食べてくれた  
ことがすごく嬉しかったです。  
家に連れて帰ってあげたいと  
ずっと思っていました。  
このような機会をつくって頂き  
ありがとうございました。



Mさんの娘さんより

お母さんが帰ってくると連絡したら、  
娘も片道何時間もかけて帰ってきました。  
まさか、家に帰って来れると思わなかった。  
みんなの顔を見せることができました。  
親孝行させてもらいました。  
ありがとうございます。



## 残された課題と今後の目標

- 家族だけで帰宅できるように多職種で支援していく
- 今後もご利用者、ご家族の願いを聴きながら、想いが叶えられるように計画実施していく

## この活動を通して

楽しい、嬉しい、笑顔の  
一瞬、一瞬をつなぎ合わせて  
今を楽しく生き生きと  
生活していただけるような支援を目指す事が  
私達介護に携わるものの努めではないか…



ご利用者

3つの  
満足

ご家族

職員

信頼関係の構築



ご静聴ありがとうございました